

## 何でも体験団「初夏の自然観察体験」

田島正子（船橋市）

日 時：2022年7月9日（土）10:00～11:45 晴れ

場 所：21世紀の森と広場（松戸市）

参加者：18名（小学4～6年）

担当指導員：渋谷、川瀬、田島 三嶋（事務局）

今回の観察会は、松戸市青少年会館が年間を通して実施している様々な体験シリーズの一環として行われました。参加者は生き物好きな子ばかりではなく、初めはどうなるのか少々不安な気持ちで本番を迎えました。「スズメバチと熱中症」に注意するよう話し、3班に分けられました。体験団ということで、五感を使った観察、遊びを取り入れた体験を重視するように心掛けました。

初めに色濃くなった木々の緑や景色を見渡してスタート。

「コブシ」緑の実とフカフカの冬芽を触ってもらいました。木は夏から冬芽を作り春の芽吹き準備を始めていることと、秋の実と早春の花を見て欲しいと話しました。「クモ」刈り込まれたツツジの植栽に網を張っているクモの網の観察。クモに手を近づけ、ナガコガネグモやクサグモの動きが違うことを観察しました。地面を這っているクモを見つけ、網を張るクモと張らないクモがいることに気づきました。

「オオバコ」葉をちぎると糸のような筋が出てくるのはなぜか？オオバコ相撲は盛り上がり、「お母さんと後でやる」と言って、2本持ち帰る子もいました。

「バッタの保護色のゲーム」草はらにロープで枠を作り、バッタに見立てた赤と緑と枯葉色の楊枝を撒いて、探してもらいました。赤は見つかりましたが、緑と枯葉色はあまり見つからず、バッタがなぜ緑色と枯葉色をしているのか理解できたようです。「草原でバッタ探し」採集した生き物をプラカップに入れ、種類ごとに分け、虫メガネで観察しました。この公園は草を刈り残してくれているので、バッタが沢山います。バッタは住みかを失わずとても有難いです。

「トンボ捕り」網が1本しかなかったので、順番にトンボを捕りました。コシアキトンボが沢山飛んでいたのですが、なかなかつかまりません。子どもたちは猛スピードで駆けずり回り、周りから「走れー」の声援。運動会のようにりましたが、捕まえられないのも経験です。弱々しいコフキトンボのメス5頭が捕まりました。

日本語があまりわからない子、リーダー格の女の子、虫が苦手な子、他の子を気遣う子、初めはよそよそしかった子どもたちは、だんだんワンチームになっていきました。私たちも子どもたちと一緒に楽しみました。よく訪れる馴染みの公園での数々の発見や体験、夏の思い出の1ページになってくれたらうれしいです。



中州でバッタや虫捕りあそび



草原でバッタの保護色ゲーム



捕まえた虫は何でしょうか ♂♀